

# 一般財団法人市川市福祉公社

## 平成 29 年度第 3 回介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 平成 29 年 12 月 12 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 10 分
2. 場 所：市川市福祉公社 ミーティングルーム
3. 出席者 27 名

### 〔委 員〕

議長 高久 悟  
委員 村尾 薫  
鈴木 靖成  
四ツ屋 真由美

以上 委員 4 名

### 〔オブザーバー〕

高齢者サポートセンター市川第一 1 名  
高齢者サポートセンター市川第二 1 名  
高齢者サポートセンター真間 1 名  
高齢者サポートセンター大柏 1 名  
高齢者サポートセンター八幡 1 名  
高齢者サポートセンター国府台 1 名  
高齢者サポートセンター曾谷 1 名  
高齢者サポートセンター菅野・須和田 1 名  
大学准教授 1 名  
訪問介護事業所 1 1 名  
訪問介護事業所 2 2 名  
訪問介護事業所 3 1 名

以上 オブザーバー 13 名

### 〔事務局〕

常務理事 林 芳夫  
事務局次長 今井 真希  
訪問介護課長 長尾 容子  
当該事業管理者 館山 史陽  
計画作成責任者 藤田 健治  
計画作成責任者 澤村 泉  
司会 大町 裕美

以上 事務局 7 名

### 〔公社職員〕

3 名

以上 公社職員 3 名

## 1. 開 会

- (1) 事務局より資料の説明を行う
  - ・ 第 3 回 介護・医療連携推進会議資料
  - ・ 事例一覧
- (2) 市川市福祉公社常務理事より挨拶  
開会にあたり会の趣旨を説明
- (3) 委員等紹介  
事務局より、委員等紹介を行う

## 2. 質疑応答

### ●サービス提供等状況報告について

<村尾委員>

- ・ 10 月から 11 月にかけて訪問回数が上がってきておりスタッフ側の対応が大変かと思うが  
人員配置等に課題は無いか。
- ・ 訪問回数は 1 日どのくらいまで可能か。

<事務局>

- ・ 人員配置については定期訪問の調整やフレックス勤務を活用し調整している。
- ・ 緊急の場合は定期訪問をずらす等の対応をしているので一概に 1 日何回とは言い兼ねるが、  
通報内容によって臨機応変に対応している。

<鈴木委員>

- ・ 同性介護についての課題はあるか。

<事務局>

- ・ 特に排泄介助の面で配慮している。しかしながらどうしても同性による介助をお求めになり、  
居住地によってはその時の訪問ルート上どうしても同性ではないヘルパーの到着の方が  
早い場合、対応に苦慮することはある。当初女性限定であったが、話し合いの上、徐々に  
男性対応も可能になったケースもあった。

### ●相談受付状況について

<高久議長>

- ・ 相談件数に関して具体的にはどういった経路か。

<事務局>

- ・ 1 件は公社居宅からの紹介。1 件は他事業所からの紹介でサービス付き高齢者向け住宅に  
お住まいの方である。

### ●事例報告について

<四ツ屋委員>

- ・ 事例該当者について現在週 1 回訪問看護を提供している。ADL は少しずつアップしてきて  
おり、転倒も少なくなっている。夜間対応型と日中の訪問介護への移行に関して、

定期巡回では長時間の対応が難しかったため、ご本人とゆっくり接することができ満足されているようです。デイサービスの提供は拒否されているが、リハビリの方には意欲的な発言も聞かれている。住み慣れたご自宅で状態安定されているケースである。

<村尾委員>

- ・事例該当者について、大変な身体状況でご自宅での生活をされていると感じた。入浴はどのようにされているのか。又、単位数オーバーが想像できるが、サービスを移行される場合、このケースは費用の問題は無いようだが、他のケースでそのような課題があるのではないかと感じた。

<事務局>

- ・事例該当者の場合、単位数はオーバーしている。入浴は訪問入浴を週1回利用されている。

<鈴木委員>

- ・事例該当者に関して、会話などのコミュニケーションをとりたいというニーズが見受けられる。リハビリ等で上手にコミュニケーションができればいいと思う。

<高久議長>

- ・全盲であることから他人にケアをされること自体、おそらく本人にとっては憚れることでありデイサービスの利用を躊躇されることも理解できる。そのような中で今後予想される課題等はあるか。

<事務局>

- ・テレビやラジオも視聴されない方であり、リハビリもそれほど積極的ではないのが現状である。性格的にもこだわりが強く他サービスの提案をするも利用には繋がらない状況がある。今後も生活リハが主体となると思われるが、ポータブルトイレではなくトイレに行きたいと話されながらも実際にはそこまで意欲的な様子ではない。現状が精いっぱいというところである。

## ●事例検討について

<四ツ屋委員>

- ・自費導入の話があったが、現状で該当者はいるか。

<事務局>

- ・現状はいない。

<村尾委員>

・いろいろなケースが見受けられる。息子と二人暮らしの方や、月1回のデイサービス利用の方に関して注目している。

<事務局>

- ・月1回のデイサービスを利用されている方は、一軒家の2階で過ごされている方であり、玄関までの移動が必要な方である。現在はデイサービスの職員がおんぶをして移動している。週1回でデイサービスを組んだ時もあったが、本人の拒否がみられることが多くなり、月1回となっている。

<鈴木委員>

- ・事例一覧の3分の1が認知症のケースだが、これからどんどん認知症の方への支援が必要となってくることからも、信頼関係を蓄積して認知症のアプローチ等に関する事例を出していってもらえるとありがたい。

<高久議長>

- ・今後の制度の仕組みの中で、移行事例ができつつあるという見方でよろしいか。

<事務局>

- ・短時間で複数回、利用者の状態に応じて柔軟に対応できるこのサービスの特徴を十分に生かしていきながらも、各々のニーズに応じてサービスの移行も進めていきたい。又、今後、定期巡回がさらに増えていくことが予測されるため、公社内のヘルパーも最大限活用した支援を考えている。

<高久議長>

- ・現在、来年の法改正に向けて看護に関する議論が進められているが、今後、定期巡回と医療との連携についてどのように考えているか。

<事務局>

- ・在宅生活を継続させていくためにも看護との連携はとても大切である。皮膚の疾患に関しても、例えば褥瘡であれば、皮膚の状態だけではなく食事状況や排せつ状況等に関する情報共有を訪問看護師としていくことで、悪化予防の効果が図られる。

## ●オブザーバーの方々から

<高齢者サポートセンター国府台>

- ・認知症への対応が増えてきている。今後、同居の家族も認知症になるケースが増えていくことも予想され、ご家族での対応が難しい場合、定期巡回サービスは必要であると思う。いつでもつながるのは利用者にとってとても安心できるものと思う。

<高齢者サポートセンター大柏>

- ・特に独居の認知症の方に関しては、時間をかけなければ信頼関係を築けないと思う。今後も包括やケアマネージャーがイメージしやすいように提案してもらえるとありがたい。

<高齢者サポートセンター真間>

- ・家族が男性の場合、介護は大変だと思う。定期巡回の単位数がどのくらいなのか聞きたい。

<事務局>

- ・要介護度 1 が 5658 単位、要介護度 5 が 25654 単位。先ほどの事例は移行したことでオーバー分が出たというケースである。

<高齢者サポートセンター曾谷>

- ・今後、定期巡回は増えると思う。マンションのオートロック等、出入りに困難がケースはあるか。
- ・認知症の方への対応の場合、できるだけ同一介助者が望ましいと思われるが、同一介助の対応が難しい現状を考えた場合、その対応方法について職員間でどのような連携をされているか。

<事務局>

- ・現在はサービス付高齢者向け住宅の利用者が、オートロック対応である。事業所の職員と適宜連絡を取り合い対応している。その他、別件では万が一の時の為に、鍵をお預かりする等の対応をしている。

- ・認知症の方への対応の仕方は同じように声掛けをする等情報共有に努めている。現状では必ずしも同一介助者が入らなければ困難であるという事はない。

#### <高齢者サポートセンター菅野・須和田>

- ・認知症の方で24時間いつでもどこにいるかわからなくなり安否確認の為に時間を常に変更していただいたケースがあった。現状、安否確認が目的のケースはあるか。

#### <事務局>

- ・安否確認のみではなく内服確認も併せたケースは存在する。

#### <高齢者サポートセンター市川第一>

- ・9月～11月にかけて通報件数が上がっているようだが、苦情につながった事例はあるか。
- ・サービスを移行する際の判断のポイントはありますか。
- ・制度の仕組みや普及の課題について課題はあるか。

#### <事務局>

- ・基本の契約内容としては通報から30分以内に訪問する事になっているが、時間帯やタイミングによっては定期訪問の兼ね合いもあり、30分以内の訪問が難しい場合もある。又、通報次第いち早く来て欲しいという利用者の気持ちもあり30分以内でも遅いと感じる方もおられる。遅れた場合はその都度訪問時に丁重に謝罪している。
- ・サービスのご希望が長時間にわたる場合や比較的自立度の高い方に関しては、日中の訪問介護と夜間対応型の混合型等のサービスをご提示している。身体介護のニーズや転倒リスクの高い方等に関しては定期巡回を勧めるケースが多い。
- ・人材の確保に関して、200名近いヘルパーを特に日中の訪問介護で最大限活用していきたい課題を解消していきたい。夜間は基本的になるべくお休み頂く事で必要な部分のみのケアでフォローしていくような仕組みを作りたいと考えている。

#### <高齢者サポートセンター八幡>

- ・事例の中でサービス導入前に関わりのあったであろう利用者に関して、現在は拒否等みられず落ち着いているとの報告を受けている。今後も定期巡回は増えて行くことが予想される中、様々なケースへの対応を期待する。

#### <ケアマネージャー>

- ・担当中の利用者に関して、今後も定期巡回を利用していくことになる予定だが、看取りまで視野に入れた対応の可能性について検討していきたい。

#### <大学准教授>

- ・在宅で暮らしていくためにも「いつでもつながる安心感」はとても心強いものだと思う。このサービスが更にケアマネージャーや家族に広まっていく事を期待する。

#### <高齢者サポートセンター市川第二>

- ・担当中の利用者に関して、最近は服薬管理もしっかりなされており非常に落ち着いている。今後デイサービスの利用も検討している。このサービスが更に普及していく事を期待する。

<訪問介護事業所 1>

- ・大変参考になった。持ち帰り検討の材料として活かしていきたい。

<訪問介護事業所 2>

- ・大変参考になった。サービスの移行等、定期巡回に限定せず柔軟に対応していく姿勢は利用者本位であると感じた。

### 3. 閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

- ・次回介護医療連携推進会議予定 平成 30 年 3 月 13 日(火)

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社  
訪問介護課 巡回係 藤田